

生きもの

布宮慈子  
やすこ

山桜、辛夷<sup>こぶし</sup>、木蓮みあげゐる人に降りくる降りくる春が

脳が起き耳がとらふる暁に地表を濡らす春の雨音

尾を振りて背黒鶴<sup>せぐろせきれい</sup>スーパ一の駐車場の水たまりにゐる

一面が白だつたんだ母の家の庭を覆ひて萌え出づる青

青き実をあまた付けつつブルーベリーは匿<sup>かくま</sup>ひてをり足長蜂を

小ぶりなる「インカのめざめ」といふ芋が黄色く灯る朝の味噌汁

田起こしの始まりたれば雪どけのころの白鳥まぼろしのごと

冷ゆる日の続く気配に冬服を羽織りて過ぎすサル目ヒト科は

田があれば生きもの多し悠々と青鷺は来よ白鷺も来よ

夕まぐれ万の蛙のこゑ響き三・一一より遙かに来たり